



新 年 ご 挨 拶

会長 小亀輝雄

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはお元気で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。21世紀も10分の1が経過し、平成の時代も22年目を迎え、昨年は天皇陛下即位20年のお祝いの式典が行われました。時は確実に過ぎ行き我が国では少子・高齢社会がますます進んでいきます。昨年は54年続いた自民党政権が崩壊し、民主党に「政権交代」が行われましたが、内政・外政に様々な問題を抱え国民は固唾をのんでこの国のあり方を見守っています。とにかく日本の将来を見据え、国民ひとり一人がある程度の痛みを我慢してでも若い人たちに夢と希望の持てる国を作って行きたいものです。

さて、我が東村山稲門会も昨年11月14日に会員の皆様のご協力で第14回総会が無事に終了し、現役員の任期もあと1年となりました。組織には新しい血が必要です。来期は新しい役員の方が大勢出て頂き、稲門会の一層の発展を期待したいと思います。

私達の稲門会の目的は、皆さんご存じの通り①会員相互の親睦と研鑽②母校早稲田大学の発展に寄与する③東村山市の文化向上に寄与する、となっています。①については毎月発行しているニュースや諸行事・同好会の活発な活動である程度は達成されていると思います。②については、まず校友会費の納入をお願いしたいと思います。「早稲田カード」(クレジットカード)を持ちますと、大学の校友会費も自動的に引き落とされますし、買い物をするすると0.5%のキックバックが大学にあり、現在年間約160億円の利用があり、毎年8千万円が学生の奨学金となっています。卒業生一人ひとりの力は小さくても、まともな大きな金額になります。これが早稲田の強みです。是非早稲田カードをお持ち頂きたいと思います。

校友会費も半分は学生の奨学金に使われています。早稲田大学の卒業生として、後輩に少しでも奨学金を給付するため、是非ともお願い致します。③につきましては、ほとんどの皆さんが東村山市を終の棲家と考えていると思いますが、第二の心の故郷とも言えるべきこの地に何が出来るか、皆さんと是非考えて行きたいと思います。雑学講座を市民に開放していますが、これだけでは不十分だと思っています。是非毎月第一土曜日に行われています役員会にお出で頂き、色々アイデアをお聞かせ下さい。

今年も皆様にとって良い年となることを祈念し、楽しい稲門会を作っていくためご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

新年会

琴の調べで新年を祝いましょう

世話人 風間和夫 394-5279
小野 智 391-9523

平成22年1月23日(土) 東村山駅西口 サンパルネ2階
午後5時～7時 コンベンション・ホール
TEL 395-5115

はがきを出し忘れた方で、ご出席いただける方は、
1月15日(金)までに、事務局長の風間までお電話ください。
TEL 394-5279



○ 2月 定例役員会

日時：平成22年2月6日（土）13:00～14:30

場所：ふるさと歴史館・視聴覚室

会員の皆様はどなたでも参加できます。是非お出で頂き、今後の稲門会のありかた等について、ご意見をお聞かせ下さい。稲門会は会員ひとり一人のものです。役員会まかせにせず、みなさんのお力を是非お貸し下さい。

○ 第66回雑学講座

日時：平成22年2月6日（土）15:00～16:30

場所：ふるさと歴史館・視聴覚室

講師：池田孝氏（当会会員 昭和40年政経卒）

演題：「日本の食料・農業を考える」

池田氏は三井化学で長年に渡り肥料部門を担当され、その分野でいろいろ経験されました。食料自給率4割未満という我が国の現状や、食の安全、地球温暖化とグリーン対策まで幅広くお話ししていただきます。ご期待下さい。

○ 退会

奥村 幾正

諏訪町3-4-38

○ 他稲門会関連会議

武蔵村山稲門会設立総会

1月23日（土）

武蔵村山市役所・市民レストラン

小亀会長出席

東京三多摩支部 2009支部大会開催

次期支部長は小亀会長が就任

早稲田大学校友会 東京三多摩支部の支部大会が11月8日（日）京王プラザ八王子で開催された。東村山稲門会からは会長・副会長はじめ9名が参加した。会は本年度支部長の八王子早稲田会の松村光雄氏の挨拶、各稲門会の活動報告があり、その後白井総長の学内状況についての講演があった。引き続き懇親会が行われ、早稲田大学ニューオルリンズのジャズの演奏があり、和やかな雰囲気懇親の輪が広がった。会の最後に次期幹事稲門会の東村山・東久留米・清瀬稲門会の出席者全員が壇上に上がり、次期支部長を勤める事になった小亀会長が、皆様のご協力を頂き来年度の支部大会も少しでも意味のある会にしたいと抱負を述べられた。なお、東京23区支部の支部長は中野稲門会会長の海老沢勝二氏（元NHK会長）が就任した。

早稲田大学 地域連携講演会のお知らせ

近松が描いた「心中」の虚実

早稲田大学特命教授 篠田正浩

日時・場所：2010年1月16日（土）早稲田大学東伏見キャンパス

79号館205会議室

入場無料

受講希望者は事前申し込みが必要です。申し込み書希望者は事務局長 風間（394-5279）までご連絡下さい。



私の登山歴もそれなりに――

細山 和男 (S48文)

私は去る9月22日、奥只見の女王「平ヶ岳」に登り、深田久弥氏がその著『日本百名山』で選定した百座の山、総てに登頂いたしました。(これは全くの私ごとです。唯の自己満足にすぎません。)

新潮社版・深田久弥著『日本百名山』は昭和39年7月20日に上梓されています。私はその2週間後に、この山が百名山一座であることを既に意識して、伯耆大山に登っています。我、14の夏のことでした。

以来46年間、初版7刷のこの著書は私の書棚にしっかりと居座り続けています。

今どき、百名山を完登したからといって大層な事でも珍しい事でも何でもありません。もう大勢の方々が百名山完登者になっておられることでしょう。

私の百座登頂が、他の方々と少しばかり違う点があるとすれば、それは百座の裡のほぼ7割が天幕担いで単独行であったこと、そして一応は現職の会社員として59歳での結願であったこと、そしてできる限り深田久弥氏の足跡を辿ろうとしたこと、更にはどんな山行でもいわば公式戦と捕らえてそれなりの「記録」を書き残してきたこと、くらいでしょうか。

その「記録」の中には、一期一会の貴重な邂逅があり、単独行者の一言一句の会話の切れ端があり、美しい数々の花々の間で過ごした至福の時間があり、アキレス腱断裂からの再起の経緯が記され、雪溪で霧に巻かれたホワイトアウトからの脱出劇があり、とぐろを巻いた蝮の群生との遭遇があり、終盤には「パニック障害」との激しい戦いが綴られています。

「もし人生がエピソードの多彩さによって計れるものなら、彼の人生はそれなりに豊かなものだった、と言えるかもしれない」(村上春樹『1Q84』BOOK I・第8章)

ならば、私の登山歴もそれなりに豊かなものだったと言えるかもしれません。

深田久弥氏の百名山には、これを否定する意見があることを私も承知しています。「ひとりの作家が恣意のままに選んだ百の山に何の意味があるのか？」――もっともな見解だと思います。

私はこの否定を否定しません。登山にも“様々な意匠”があつていいと思っています。そして、この文脈のなかで、私は深田久弥氏の労作を敬愛しその百山の選定に得心するひとりです。

2週間後、一時期私の相棒を務めてくれた二人の後輩を伴って「茅ヶ岳」に登りました。深田久弥氏終焉の山です。早大時代所属していたサークルの故事に倣って「酒と煙草」を供え、私の登山人生の演出者の役割を担ってくれた故人に合掌。

快晴微風、秋冷爽快の下、私の心象風景そのままにサラサドウダンが激しく鮮やかな深紅に染まっていました。

同好会だより

当会会員の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

俳句同好会 (稲酔会)

世話人 井垣和太 TEL 04-2924-2934



第47回「稲酔」俳句会が12月26日(土)午後1時から、定例の恩多ふれあいセンター多目的室で、9名の参加を得て実施いたしました。栗島三郎、井垣稲雀、大西回生、風間和夫、幸田瑞雄、小永井哲哉、高部糸行、内藤慎、丸本北窓の諸氏が出揃ったのに加え、八木竜湖、戸田梶、そしてこの度仲間入りされた、出田麦路(邦博)さん(昭45文)の3名が投句参加、計12名60句という沢山の俳句が集まり、本年の掉尾を飾るに相応しい盛況な句会となり、17時までの4時間楽しい勉強会が進められました。

今回の兼題「湯豆腐」が、身近な季題であったので兼題句が22句もあり、ああでもない、こうでもないと選評にも熱がこもりました。

互選の結果最高句には

湯豆腐の欠片ばかりを掬う母

稲雀

が選ばれました。

句会終了後は、出席者9名全員が参加して、場所を「丸藤」の大広間に移しての忘年懇親会を開き、酒杯を重ねながら1年間の活動を振り返り賑やかに行く年を惜しみました。

(稲雀記)

ウォーキングの会

世話人 高橋正夫
土橋雄次TEL 309-3407
393-5708

第17回ウォーキングの会「妙正寺池から善福寺池」を下記要領で行います。事前の申し込みは不要ですので、当日ご都合のつく方のご参加を歓迎します。
雨天の場合は中止。

- 1) 集合日時： 1月30日（土） 午前9時30分
- 2) 集合場所： 東村山駅西武新宿方面行きホーム中程
- 3) 行程： 東村山—井荻—妙正寺池—観泉寺—井草八幡宮—善福寺池—
東京女子大—西荻窪駅
(歩行時間約2時間半)

参加費無料、但し交通費、昼食、飲み物は各自負担。小雨の場合は8時半までに高橋宛お問い合わせ下さい。



第16回ウォーキング記 (11月28日)

今回は拝島駅から多摩川沿いを歩きました。最初に1月のだるま市で有名な拝島大師に詣でましたが、この付近では目立つかなり立派な建物です。そこから多摩川沿いの遊歩道に出ましたが、晩秋の晴れ渡った青空に恵まれ、奥多摩・奥武蔵の山々もくっきり見ることができました。帰りには石川酒造に立ち寄り、新酒の試飲に誘われてお土産を下げて、拝島駅に向かいました。約7キロのコースでした。(高橋記)

参加者：阿部、滝川、土橋、松永、三宅、高橋 (敬称略)

園芸の会

世話人 當摩照夫・彰子 TEL 396-3033



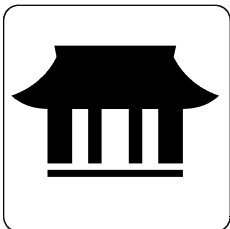
去る11月5日（木）に恒例の秋蒔き草花の苗の交換会を行いました。出席はいつものメンバーが総勢14人。今年もパンジー、ビオラ、ダイジー、ゴテージャ、ネモフィラ、ロベリア、ポピーなどたくさんの草花の苗が集まりました。成績が今ひとつの人が多かった中、今回も藤澤さんのいろいろな種類の苗のお陰で、それぞれが苗を持ち帰りました。皆さん、がんばって咲かせましょう。

次回は下記の日程で、さくらそうの芽とさぎ草の球根の交換会を行います。ふるってご参加下さい。

記

日時 平成22年1月28日（木） 午後3時～5時
場所 東村山市市民スポーツセンター、スポーツクラブ室

郷土史の会

世話人 江藤昌明
伊藤友己TEL 391-4076
398-1352

郷土史の会の新年初の会合は東村山の歴史の発端を学ぶ為に、昨年5月2日に開館した「東村山市埋蔵文化財センター」八国山たいけんの里を見学します。

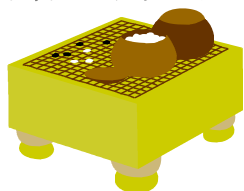
「たいけんの里」には下宅部遺跡を初め市内の遺跡から出土した縄文時代の遺物を中心に約30万点が収蔵されています。今回は特別に、通常は非公開の2Fの収蔵庫を初め「たいけんの里」のバックヤードを見学させて頂くことになりました。是非ご参加下さい。

記

日時：1月30日（土） 10:00～12:00
集合：西武園駅 9:45

たいけんの里へは西武園駅から徒歩約10分です。直接「たいけんの里」へお出での方は、10時までに現地にお出で下さい。

囲碁同好会



世話人 福田 晃 TEL 394-0593
高 鷲 近 394-2336

● 今年最後の「例会」は、12月19日（土）、いつもの市民センター別館で開催されました。八木正晴さんは、今回も好成績で、次回より二段に昇段されることになりました。

＜参加者／敬称略＞ 一色・江藤・田島・高鷲・福田・中川・野村・鈴木・八木・丸本（以上10名）

○ 第48回オール早慶囲碁フェスタ

平成21年12月5日（土）、日本棋院市ヶ谷本院にて、囲碁会現役（学生）、囲碁部OB、首都圏各地域稲門会から260名の参加により、盛大に開催されました。

我が東村山稲門会からは、福田（六段）が無差別クラスに参加、二回対戦し、1勝1敗（半目負け）で、責任を果たすことができました。

対局後は、日本棋院大竹英雄理事長のご挨拶、現役幹事の指揮により両校校歌を斉唱し、来年の再開を約し、散会しました。全成績は、以下の通り。（早稲田勝利）

・無差別戦

現役（学生）	早稲田22勝、慶応10勝
囲碁OB、稲門・校友	早稲田70勝、慶応65勝
（計）	早稲田92勝、慶応75勝

・ハンデ戦

稲門・校友	早稲田40勝、慶応28勝
-------	--------------

（福田記）

麻雀同好会



世話人 小野 智 TEL 391-9523
松 永 常 尚 332-5621

第49回大会を去る12月13日（日）忘年大会として麻雀Mにて開催しました。

参加者16名（4卓）。但し1名は当日連絡なしのドタキャンのため、急遽Mの店主（三上氏）を加えての大会となりました。

毎度ながら小亀会長寄贈の満貫賞（チョコレート50個）を争っての、焼酎（三宅氏差入れ）、酒、ビールと賑やかな雀戦となりました。

結果は優勝者朝木氏（3回目）と準優勝土橋氏との得点差は2点の僅差でありました。尚前回優勝（4回）の某氏は過去（記録ある限り）20数回で最低の負けっぶり（合わせて過去最高の得点者でもあり）を露呈致しました事は、如何に大会麻雀の面白さと、本人のキャラクターを現したものと興味を感じるものであります。

以下当日の参加者は、赤荻、阿部（初参加）、小野、風間、小亀、佐野、鈴木、田口、長井、中川、番場、松永、三宅の各氏でした。

次回開催予定は3月14日（日）。第50回の節目の大会として盛大に行いたいと思いますので、今からは是非予定に組み込んでおいて下さい。（松永記）

ゴルフ同好会

世話人 井 垣 和 太 TEL 04-2924-2934

忘年ゴルフ会を飯能GCで実施しました。

今冬一番の冷え込みが続いた12月16日（木）、飯能GCに健脚ゴルファーが集い、恒例の忘年ゴルフを実施いたしました。世話人の怠慢で、ご案内が遅く先約ありで参加断念の方も数人おられました。お詫びいたします。

時雨が来そうな天気の中、レディースの森田果子さん（故森田茂夫人）、紅松容子さん（S45教育）に加え、内藤慎さん（S28商）、益田昂さん（S36法）、堀田秀夫さん（S45文研）、井垣和太（S37商）の5名が参加、井垣昭理事長（小平稲門会）も例年にならい特別参加して2組が9：12からスタートしました。

時折、冷たい雨粒が落ちてきて傘を開きましたが、なんとか無事にラウンドを終了。

昨年グリーンと意見が合わず大叩きした堀田さんが、今年は見事に読み切りさすがシングルとうならせるスコアでリベンジ達成。益田さんも後半はしっかりとスコアアップ。

他の人たちは、名門コースを思う存分楽しんだ事が分かる成績で終了。

プレー後、クラブハウスで歓談をおこない、堀田さんから「シニアゴルフ」の指導なども拝聴しながら楽しいひとときを過ごしました。

来年も元気ゴルフを実践しましょう。

カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071



今年最後の例会を忘年会を兼ねて12月5日開催、恒例の優勝大会を行いました。この一年修練した持ち歌を披露、熱気にあふれ大いに盛り上がりました。

優勝は2連覇の井垣氏（オンナノミレン）、2位は8月から毎月参加の井手氏、3位内藤でした。

来年は何か新企画を導入したいと思います。アイデアをお寄せ下さい。本日の参加は井垣、井手、滝川、高部、南湖、内藤の各氏。各自の精進に夫々表賞を行い来年の健闘を確認散会。

〈今後の予定〉

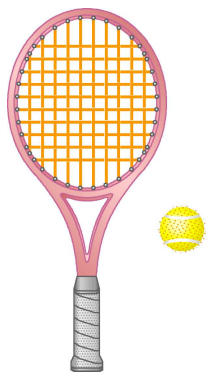
1月はお休み

2月6日（土） 17:10 カラオケランド ズウー

3月6日（土） 17:10 カラオケランド ズウー

テニス同好会

世話人 田島 隆夫 TEL 396-7676



12月の例会は7日（月）、久米川コートで実施。冒頭、世話人引継ぎの簡単なセレモニーを行い、11年間の長期に亘りお世話頂いた當間さんに会員一同感謝の意を表しました。

参加者は、石塚、市川夫妻、井手、滝来、當間、戸田、田島の8名。月曜日でしたが多くの参加者がありました。

快晴で絶好のコンディションの中、試合をしたり、差入れのお菓子を食べたりして楽しみましたが、初参加の石塚さん、市川、滝来の女性陣の活躍が目立ちました。

〈今後の予定〉

日時 1月 11日（祭） 午後3時～5時

2月 28日（日） 午前9時～11時

場所 両日とも久米川コート3

12月度「お誕生会」報告

HAPPY BIRTHDAY

担当幹事：南湖 修一 TEL 390-2287

今月の誕生会は師走に入った12月5日（土）、17時05分久米川の割烹「丸藤」で開始された。12月にお誕生日を迎えられる方々13名中5名の他役員などで参加者は合計19名となった。小亀会長の「「達者でぽっくり」のための12ヶ条」のお話とお祝いの言葉のあと、風間副会長からは今月誕生日を迎えられる方々の卒業年度と学部のご紹介を交えたお祝いの言葉と乾杯の音頭によって宴はスタートした。しばらく歓談後、会長から恒例となったバースデープレゼントが手渡され、その後、この5名の方々から夫々スピーチを頂いた。

寅歳の紅一点當摩彰子さんは、東村山稲門会という場にいるときは自分自身の“時”を過ごす貴重な時間であるとの感慨を述べられた。

昭和51年卒で応援部だったという小森敏孝さんは、市内の学校で教鞭をふるう傍ら野球部の監督を長らく努められたり、箱根駅伝でも毎年大手町まで母校を応援に行っているなどまさにアグレッシヴに活躍されているとのこと。

12月14日で84歳になられるという江藤昌明さんは、東村山周辺で伝わっている言葉などの郷土史研究を中心として毎日毎日が予定で一杯なほど「動いて」いらっしゃると意気軒昂のご様子であった。

絵と陶芸でまさに芸術を極めていらっしゃる一色泰久さんからはご自身の経験から「生きていることの大事さ」、「健康診断の大切さ」を訴えられ、昨年に続いてご自身が描かれた絵画の絵葉書を皆さんにプレゼントされていた。

しんがりとして昭和2年生れの井出 巖さんは、カラオケ同好会、音楽同好会、テニス同好会などで稲門会をエンジョイしていると近況を語られた。その後引き続きお得意のハーモニカのご披露があり、♪♪女心の歌♪♪ から ♪♪きよしのズンドコ節♪♪まで5曲ほどを全員で合唱した。

会長から芋焼酎「わせだ魂」、當摩副会長から米沢のにごり酒の差入れもあり会は大いに盛り上がり、赤荻さんによる記念撮影も順調に進み、19時すぎに、井垣さんの音頭で「東村山稲門会の歌」、当会の新しき熱血漢、小森さんの音頭で「紺碧の空」、「早稲田大学校歌」を全員で斉唱、當摩副会長のメの挨拶でお開きとなった。



オペラは楽し

高橋 正夫 (S35政経)

世にクラシックファンは多けれど、オペラはどうもと、敬遠する向きが多いようだ。

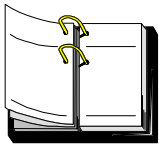
理由として、長すぎる（ワグナーの「指輪」は4晩にわたり、延べなんと14時間強、一般的なオペラでも2時間強）、言葉がわからない（最近では字幕を出す劇場も出てきてはいるが）、筋書きがいかに陳腐である（主人公は最後でたいてい死ぬか、ハッピーエンドか）、入場料が高過ぎる（欧州では政府援助、USAでは税制と絡む民間の寄付金がバックに割安な料金体系が可能）といった要因が挙げられるだろう。しかし、オペラの毒という言葉があるように、オペラの魅力にいったんはまり込んでしまうと、もう麻薬患者のようになって、抜けられないほどのオペラファンになってしまうものだ。その点で、頻繁にオペラの紹介を続けている清瀬稲門会の活動はオペラファンの層を拓ける上でも素晴らしいこととおもう。もともと、ヨーロッパではオペラは音楽の基礎になっていた。いわゆるシンフォニー・コンサートが生まれてくるかなり以前から歌・オーケストラ・演劇・舞台技術のすべてを包括する総合芸術であるオペラは盛んに上演されていた。ルネッサンス期には広く普及していたと伝えられるが、記録によれば本格的なオペラは17世紀初頭にモンテベルディの「オルフェオ」が上演されている。

私がオペラというものに接したのが高等学院の頃、クラスの友人がたくさんレコードを持っていて、よく家に聴きにいったのだが、その中に「椿姫」の全曲版があり、たしか12、3枚位あったとおもう。（当時はSPで1枚両面が8～10分）筋書きは追えず、ただ音楽を聴くだけだったが、美しいアリアを繰り返し聴いていた。椿姫を歌っていたのは、当時のあたり役の名花アルバネーゼ、指揮がトスカニーニという今でも覚えているビクターの名盤だった。今ではDVD1枚に収められ、映像も見られ、音質も比較にならないように良くなっているだけに、隔世の感がある。

当時から入場券が高いために、なかなか実際のオペラを見にゆくことはできなかったが、藤原歌劇団の「カルメン」を見たときの記憶はいまでも強く残っている。

白黒のテレビが出始めた頃、1956年にNHKが招聘した第1回イタリア歌劇団の公演が放映されたが、それこそ度肝を抜かれる思いだった。これが本場のオペラというものか、レコードだけでしか聴けなかった世界一流の歌手たちに接してますますオペラの世界に引き込まれることになった。この企画は1976年まで8回にわたって、それこそ本場、スカラ座の引越し公演の規模で来日し、歌手だけでなく、当時の日本では望み得ない豪華絢爛たる舞台内容だった。いま振り返っても、歴史に名を留める大歌手たちをよくも揃えることが出来たものとおもう。その強烈なインパクトの影響は多大で、日本のオペラの普及に与えた甚大な功績は計り知れないものがあつた。いまではスカラ座だけでなく、メトロポリタンやウイーン歌劇場に大勢の日本人観光客らしき一団を見る機会が増えているのも時代の移り変わりであろう。私も80～90年代にたまたま、仕事の関係でニューヨークに滞在する機会が多く、メトロポリタンの安いチケットの恩恵に預かって（日本公演で2万円台の席が60ドル位で買える）、寸暇を割いてはメト通いをしたものである。また日本ではなかなかチケットを買うことが出来ないので、以前から買い集めていたカセットテープ、LD、CD、DVDを家で聴いて（見て）いるが、機器がどんどん変わり、一時集めたLDなどが見ることができなくなってしまい、技術の進歩というものの不便さも実感させられている。それにしても、世界中のオペラファンがいまやあらゆるオペラの映像を楽しむことができるようになったのはかの名指揮者カラヤンの功績に負うことが大きい。すでに音声録音の時代から先駆けて取り組み、いち早く映像化にも手がけた先進性は素晴らしいものとおもう。そのカラヤンのパートナーがソニーで、カラヤンなくしてソニーの映像技術の発展もなかったのではないかとおもう。彼の死に立ち会ったのは元会長の大賀典雄氏だけであつたというのも、その緊密な関係を示すものであろう。

私の正月の楽しみも紅白ではなく、恒例の3日の3チャンネルの新春オペラコンサートである。今年は数えて53回目、日本を代表する一流歌手たちの競演で、ときには来日中のスター歌手の客演もある。駅伝とラグビーとこれを見ないと、正月にはならないというのが習性になっている。



今月の行事（1月）

9日（土） 1月度役員会
1,2月お誕生会
11日（祭） テニス同好会
23日（土） 新年会
28日（木） 園芸の会
30日（土） ウォーキングの会
郷土史の会

2月の予定

6日（土） 2月度役員会
雑学講座
カラオケ同好会
28日（日） テニス同好会



編集局だより

○今年は平成22年。西暦では2010年です。10年単位で時代をくくれば2000年代が終わり、2010年代に突入したことになります。ところで80年代とか90年代という言い方はかなり浸透していると思われませんが、00年代はどのようなのでしょうか。アメリカでは何と呼ぶのか議論になっているようです。「ぜろぜろねんだい」と言うのでしょうか、“00年代を振り返って”などと言われても何故かしっくりこないような気がします。呼び方はともあれ、時代としてはあまり良かったとは思えない10年でしょうね。ここはひとまずリセットして、新たな10年のスタートを切りたいものです。

○次号の原稿締め切りは1月22日（金）です。よろしく願いいたします。（中村）

fax: 042-391-0581 email: mym-naka@u01.gate01.com

俳壇

父母の墓灯りは銀杏紅葉なり 山茶花は散るに任せてまた咲きぬ	湯豆腐の残りひとつの浮き沈み 冬紅葉はまだまだ綺麗でいるつもり	水面占む一幅の画や番鷺驚 家の影映しゆるりと冬の川	湯豆腐のけぶり立つ母若返る おでん酒吾子と明日を語りけり	退院の妻のつくりし根深汁 フロイデを歌ひて帰る寒夜かな	木枯らしの吹き抜け走る永田町 木洩れ日をたどりて鳴くや冬雲雀	湯豆腐や口を開けば孫のこと 鴨豆腐や思い出される友のくせ	湯豆腐や老軀只今安定期 湯豆腐や膨らむ夢のまたひとつ	泣けぬ瞳を冬海へ向け漁夫の葬 着ぶくれて大路に絵馬と土鈴を売る	残菊の色香惜しみて残しけり 初氷鳥もなにやら珍しげ	草々の枯れて小暗き古墳山 水禽の夜を忙しく騒がしく	湯豆腐や手酌進まぬ妻の留守 年の瀬の居場所を妻に決めさせて	懐かしき話題も弾み年忘れ 湯豆腐や不自由な手に孫の手が
出田 麦踏	井垣 稻雀	栗島 三郎	八木 竜湖	丸本 北窓	内藤 慎	戸田 梟	高部 糸行	小永井 哲哉	幸田 瑞雄	菊田 一平	風間 和夫	大西 回生